

セレブリティ・ミレニアムによる日本一周クルーズ(後半)

個人会員 福富 廉

池田事務局長が舞鶴で下船された後の最終横浜港までの様子を簡単にレポートしてみたい。次の金沢港で下船された方もいらっしゃるので、横浜港まで乗船された学会関係者は 10 名前後と推察する。

6日目 舞鶴港は好天の中、入港した。新日本海フェリーでは暗い中での入出港となるので、めったに無い素晴らしい体験することができた。港では、幼稚園児が歓迎のダンスを披露してくれてかわいかった。

筆者はタクシーでまず五老ヶ岳のスカイタワーに登って素晴らしい景色を楽しんだ後、東舞鶴に回り、海上自衛隊や JMU の造船所の景色を見て、赤れんが倉庫群を散策した。乗客の多くは天橋立や京都方面へ出かけたようだが、天橋立からの帰りの北近畿タンゴ鉄道は夕方の通学生の帰宅と重なって大混みだったようだ。天橋立は隣の宮津市だし、五老ヶ岳は公共の交通機関が無く、海軍記念館や港めぐりは平日はやっていないので、せっかく風光明媚な舞鶴市の観光はもう少し頑張っしてほしい気がする。そのせいか船から最寄りの西舞鶴駅までここだけシャトルバスが有料 (200 円) である。

この日のシアターは 2 回目のレビューショー。ショーチームが善と悪に分かれて、苦境に陥った王国を元に戻すという、どちらかと言うと踊りは控えめで歌がメインのショーであった。

船はこの後、予定の 23 時より 20 分程早く、ペンライトの地元の方々に見送られて出港。遠く右舷に新日本海フェリーのファンネルが見えた後、暗闇の中に入っていった。



舞鶴・五老スカイタワーより

7日目 朝 7 時半に金沢港入口の大浜埠頭に着岸。地元の金沢港には戸水埠頭、御供田埠頭を含め 3 か所の客船埠頭があるが、飛鳥 II を超える大型船は大浜埠頭に着岸するようだ。ただし、大浜埠頭の周りには本当に何も無く、倉庫とゴルフコースがあるのみで、鉄道にも興味がある筆者が最寄りのローカル鉄道の駅から歩いて 40 分程もかかる場所であった。金沢市街まではシャトルバスで約 30 分程、思ったよりスムーズに行けていたようだ。金沢市内は交通便利で見所も多く、外国人も多くて華やかだった。

夕方 17 時前に出港。ここでは、地元で組織された金沢港クルーズ・ウェルカム・クラブがあり、よさこいソーランの盛大なパフォーマンスで見送ってくれた。

この日のシアターはジョンとポールの 2 人兄弟によるビートルズのトリビュート。知った曲が多くて楽しめた。

また、この夜、プリンセスクルーズだけかと思っていたバルーン落としのイベントが行われた。



金沢港大浜埠頭のセレブリティ・ミレニアム



よさこいソーランで見送ってくれた

8日目 朝 9 時半頃、秋田港中島ふ頭に接岸。この日もヘリパッドの開放が予定されていたが、雨の後で滑りやすいという理由で中止になった。ただし、昼に向けて晴れてきたのはうれしかった。ここには専用ターミナルがあり、同じ岸壁の奥側が新日本海フェリーのターミナル、さらにその奥に展望タワーを擁した道の駅セリオンがあるという場所だった。クルーズターミナル前では秋田よさこいヤートセのパフォーマンスで入港を歓迎してくれた。

ここでは、JR 秋田駅までのクルーズ・トレインなるここだけの珍しい専用列車が運行されていて、運賃も安いので多くの乗客が利用していた。秋田港駅まではわずかな距離だが無料のシャトルバスもあった。秋田では千秋公園や竿灯の実演があったねぶり流し館等を訪れて、なかなか良いものだった。

クルーズ・トレインの復路 1 便は大混みだったが、駅に降りると、ターミナルを特別に訪れてくれながら時間的に見られないと思っていた国の重要無形民俗文化財の土崎港曳山まつりの曳山の一行が帰るところで、乗客の多くが楽しんだ後、道の駅セリオンに向かう人々も多かった。

道の駅には色んな施設があり、何よりもポートタワー（高さ 143m、展望台は 100m）の無料がうれしい展望台からの眺めは、遠く男鹿半島が見える等、素晴らしかった。

さらに、ターミナルに戻ると、2 匹の秋田犬に人だかりしていた。

夕方 18 時前に出港。ここでは、有名な秋田竿灯が大きなもの 3 つ、子供用 1 つの出演で盛大に見送ってくれ、乗客の多くが楽しんでいた。残念ながら、筆者たちはメインシーティングの入場が 18 時までなのでやむなく途中で切り上げたが、18 時半近く頃までぼちぼち入場してくる乗客が見られた。この日のシアターは 4 人の男性歌手によるロックボーカルショーだった。



秋田よさこいヤートセで入港歓迎された秋田港中島ふ頭



秋田竿灯で出港見送り



道の駅セリオンのポートタワー展望台からの眺め
セレブリティ・ミレニアムの最奥が男鹿半島
手前が新日本海フェリーのターミナル、その手前は海上保安庁の巡視船がわ、
右側がJR 秋田港駅で中央右寄りの白い屋根がプラットフォーム



珍しい秋田クルーズトレイン
ただし、往路3便/復路2便の
うちこの特別車両は往路の第2
便1回だった。

9日目 朝6時頃、船は晴天の中、陸奥湾の最狭部、平館海峡を通過しており、逆光ながら、ブルードルフィン2が反航していった。右舷側は朝日に映えて、津軽半島の新幹線の高架橋が続く姿がきれいに見え、そのうち、左舷には夏泊半島が見えてきた。

7時半頃、青森の新中央埠頭に着岸。入港前、この日は予定通りヘリパッドが解放され、舞鶴の時ほどの混雑も無く、クルーと一緒に写真を撮ったりしながら乗客が楽しんでた。以前、ダイヤモンド・プリンセスで訪れた沖館埠頭はくず鉄等が積まれた商業岸壁で駅近くの観光物産館アスパムまでシャトルバスが運行されていたが、ここは駅周辺の繁華街に近く、公園の中の専用岸壁なのできれいだった。ここでも、地元の人たちが旗と笛太鼓で入港を歓迎してくれた。

青森では、前回、時間が無くて閉館間際の八甲田丸の船内を15分程駆け回っただけだったので、

改めて来訪。青函ワールドのジオラマや様々な展示、船からの景色に大変満足した。前回、函館の摩周丸と八甲田丸を続けて見て、摩周丸の状況はちょっと寂しかった記憶があるが、今はどうだろうか。その後、ねぶたの家ワ・ラッセや商業施設 A-Factory、アスパム等を散策したが、なかなか楽しかった。

船は、17 時前に、鐘太鼓のパフォーマンスと「へば！まだ青森さこいせー！」の横断幕と掛け声に見送られて出港した。

この日のドレスコードは、2 度目のイブニングシック（一昔前のセミフォーマル）の日だったが、心なしか1 回目よりもフォーマル度が高かったように見えた。夜出港の舞鶴はともかくも、金沢、秋田の寄港日のダイニングは半分も無いくらいの入りで、そんなに乗客が少なくなったのかと思っていたが、この日は7 割程度の入りで少し安心した。観光で疲れてビッフェで簡単に済ませた人が多かったのかもしれない。

この日のメニューには、ロブスターとベイクトアラスカがあり、やはり船ならではの定番と、うれしかった。途中で、シェフやウェ이터の感謝のパレードがあったが、さっと通っただけのあっさりしたもの。ナプキンを振り回したのも、ほんの一瞬だった。

シアターのショーは、元ベトナム孤児の天才ピアニスト／エンターテナーの独演会。半分スピーチだったが、前2 日と違って通訳が入ったので、話は理解しやすかったのではないだろうか。



反航するブルードルフィン2（背景は下北半島）



八甲田丸の操舵室から



入港歓迎してくれた青森港新中央埠頭客船ターミナル



鐘太鼓で出港見送りしてくれた地元の方々

10 日目 この日は入港前日の終日航海日。往路と違って暖かく穏やかな晴天で、ジムに行ったりプールサイドで昼寝したりして過ごしたが、海外と違ってどこも大変空いていた。皆さん、疲れて船室にいたのだろうか、あるいは、来年のゴールデンウィークのクルーズが当たるビンゴに参加したのだろうか。もやっていたこともあり、夜の灯台の明かり以外、陸は全く見えなかった。この日のシアターは3回目のレビューショー。舞台装置は3回とも同じだったが、この日の歌と踊りは一番華やかで激しく大変満足できるものだった。最後の方ではおなじみのYMCAの歌で観客全員の振りで盛り上がった。

11 日目 この日の横浜入港は早朝4時過ぎの予定でベイブリッジ手前の大黒埠頭の新ターミナルに着岸。ダイヤモンド・プリンセスが皆さん橋に同日入港するため、横浜市と優先契約のあるカーニバル・グループの同船のほうが皆さん橋に着岸するわけだが、2隻並べることも可能はずなのにどうしてそうしないのだろう。

その方が効率的だろうに。それは別にして、朝早かったので入港のことはあまり気にしていなかったが、6時に起きたときに気がついたら、ダイヤモンド・プリンセスは真横を通り過ぎて、既にベイブリッジの内側に入っていて、せっかくの撮影チャンスを逃してしまったのは残念だった。

8時過ぎに下船して、桜木町駅までシャトルバスで送ってもらったが、横浜市内の自宅には9時半には着いてしまった。夢から日常へ、近すぎるのも変な気持ちだ。



船上からベイブリッジとダイヤモンド・プリンセス（奥）を臨む

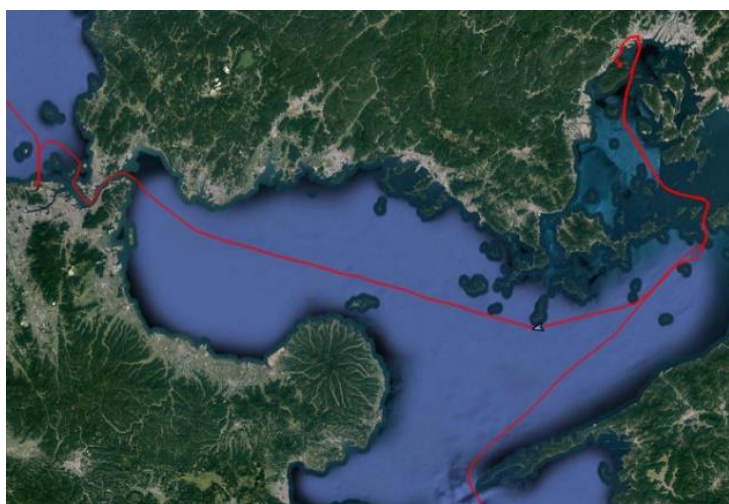
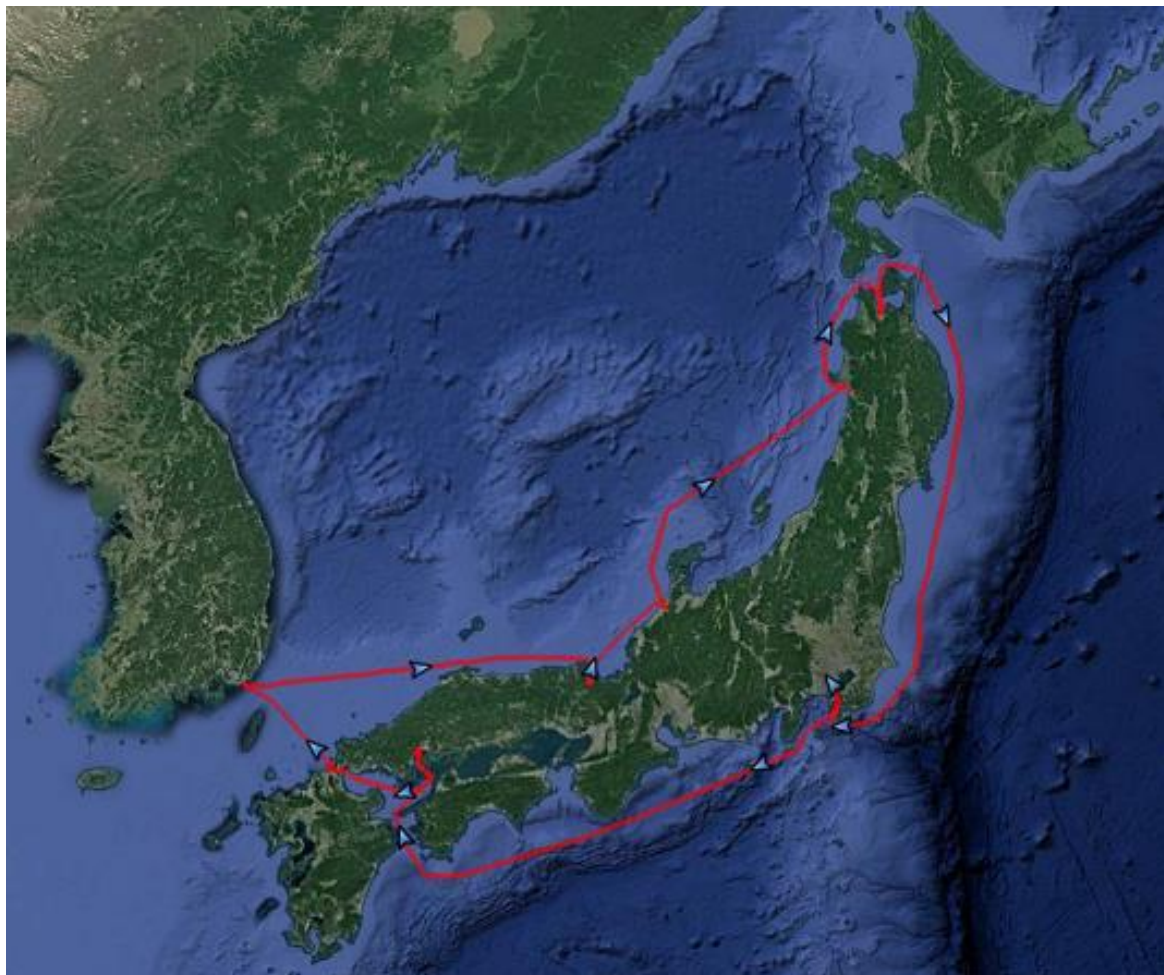
クルーズ全体についての感想を述べると、このクルーズはミキ・ツーリストのチャーターで乗客はほぼ全員日本人、時期的にもリタイヤした方々が大変多いと推察されたが、聞こえる話からすると、既にダイヤモンド・プリンセスに乗ったことがある人が多かったようだった。チャータークルーズのせいだろうか、ショップの開いている時間が少なく、ロゴ商品などもすくなかった。また、バーやカジノを始め、ジムやプール等の利用も少なかったように感じた。船については、改装前の本船を知らないが、白／灰色／ベージュを基調とした船内はとてもきれいで素晴らしかった。また、中でも、前方の眺めの良いスカイ・ラウンジやジム、広いプロムナードデッキ、船尾のルーフトップテラスやビュッフェ後方のオープンデッキ等々、素晴らしい場所が多かった。

一方で、レビューショーが初日／中日／最終日と最近経験したことが無かったパターンだったし、ディナーの途中でスパークリングワインが配られたり、ウェルカムパーティーも簡易で船長が出てきても片手を挙げただけで挨拶も無く引っ込んだりしたのが、また新たな経験だった。

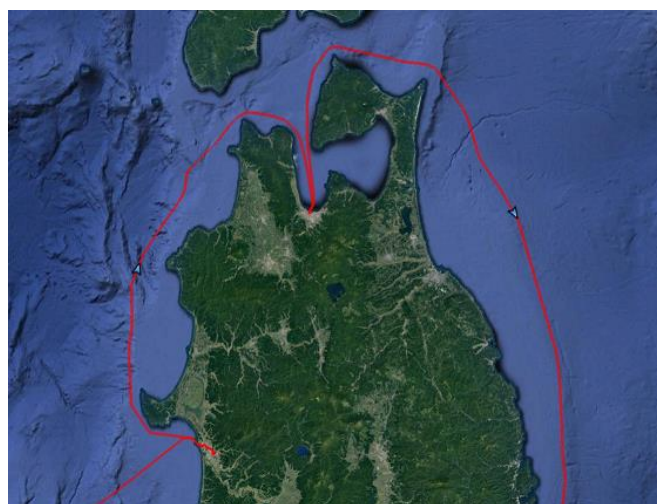
ちなみに、国内各寄港地での入出港の熱烈歓迎は本当に素晴らしく、本当に感謝したい思いだ。

最後に、今回の研修クルーズを企画していただいた池田事務局長や赤井先生と学会、ミキ・ツアーリスト、それから同行しお世話になった学会関係者の方々に改めて感謝したい。

今回のクルーズの航跡【船からのデータでは、総クルーズ距離 **2116.5 海里**】



～広島～関門海峡～北九州～



～秋田～青森～

【その後】

この日、セレブリティ・ミレニアムとダイヤモンド・プリンセス、日没前後の微妙なタイミングだが、出港時刻が同じ2隻のツーショットが撮れないかと出かけてみた。実際には港を出てくるタイミングに20分程の差があったため、うまくはいかなかったが。

ちなみに、このダイヤモンド・プリンセスには、今回のセレブリティ・ミレニアムに乗船されて、そのまま横浜港で乗り継いだ学会員の方が乗船されているはずだ。



次航で浦賀水道を清水に向かうセレブリティ・ミレニアム



ダイヤモンド・プリンセスとセレブリティ・ミレニアム（右奥）